

## 議員定数に関する市民と議会の意見交換会記録

Bグループ	(社)留萌地域人材開発センター運営協会 所長 鈴木鉄男 (リーダー) 北海道留萌高等学校 教頭 菅原和幸 連合北海道留萌地区連合会 会長 井上雅彦 留萌市校長会 広報部長 秋葉良之 留萌市社会福祉協議会 副会長 福岡 徹 国際ソロプチミスト留萌 会長 菅原敏子 (一社)留萌青年会議所 理事長 伊藤俊輔
担当議員	司会 坂本守正 議員 記録 笠原昌史 議員 鵜城雪子 議員

### ○ 議会について出された意見

- ・ 議会の動きがよく見えない。いろいろとやろうとしていることは、あるんだなと感じた。
- ・ 議会が見えない。身近に感じるができない。意見交換会に参加し、講演を聴いてイメージが少し変わった気がする。
- ・ 講演のなかで、議会は行政に対し「野党」であるとの考えがあり、面白い考えだと思った。
- ・ よくニュースで議員の不祥事が取り上げられるが、留萌の議員は大丈夫なのかと思った。
- ・ 一生懸命頑張っていると思うが、一市民として頑張っている姿にアンテナを張っているかという自信はない。広報誌などを見る程度である。今日の講演を聴いて、他市町村の実例の中の取り組みについて、色々良いものがあることがわかった。それらを参考にしながら、留萌は留萌らしく身の丈にあった議会を創ることができないかを感じた。
- ・ 市民の考えや意見を吸い上げてくれるのが議員だと思い、意見をだせる市民が一番だと思っているが、多くの課題があることから、難しい問題も抱えているんだと思った。
- ・ 議会も議会基本条例の制定など努力をしているが、市民には理解をされていないんだと思っていた。

### ①・② 議会活動と議員活動について

- ・ 議会の活動がなかなか見えてこない。また、個々の議員の活動も理解できるような動きにはなっていない。もっと市民にわかりやすい活動を。
- ・ 若い方が議員の活動にやりがいを持って「議員になってもいいぞ」というようなPRも必要。
- ・ 市民の声をしっかりと受け止めて議会の運営に反映できるような活動をしてほしい。
- ・ どこのマチも財政難を理由にやりあいことが出来ずにいる。議会も同様に報酬削減など

により、若いやる気のある人がでてこれずにいるのではという話を聞いたことがある。

- 議会だよりや新聞報道の一般質問を読むと、何人もの議員が同じ主旨の質問をしているのを見かける。その必要があるのか。質問の調整をすることがないのか。
- 市民から見て国会議員と各自治体議員の仕事が混同しているでは。市民にアンケートをとっても、国会の「政治不信」などに影響をされ、このような結果になっているのではないか。各々の議員の活動が、可視化されてわかりやすく市民の伝わっていくことが必要ではないか。
- 議会だよりの一般質問を読んでも、「こういう質問をしました」だけで、成果がどうであったか、どのように発展していったかが見えてこない。質問後の追跡を行ってほしい。
- 議会活動は大変だと思う。山ほどの条例や法律をどれだけ勉強をしても追いつかないのでは…。
- 議会は監視機関でもある。行政が提案することに対して議会は「もっと良いモノはないか」などをしっかりとチェックし、より良いモノにしていくために、個々の一般質問で終わらせないで、議会として議論をしてその結果を議会だよりで報告してもよいのでは。
- 全てのことを理解することは難しくても、一部だけでもプロフェッショナルな視点を持った議員がいる。そのような議員が数多くいたほうがいいのではないか。その中で議会の活動の発信をすべき。

### ③ 議員定数について

- 定数削減の話が一人歩きしている気がする。活動するための環境作りも必要ではないか。定数についてはなんともいえない。
- 市民感情の部分と、本当に必要な人数の部分は分けて考えるべき。
- 今の留萌市議会では、多様な意見が多くだされることから人数的にバランスが良いと思う。削減することによって「歪み」が生じるのではということに懸念を感じる。
- 議員数を減らすことよりも、バランスを考えていかないと偏ったものになってしまうのでは。
- このような議論はもっと早く開催してほしかった。
- 政策課題の多い現状の留萌で削減することで、本当にチェック機能などが機能するのか。